

がんばろう  
南三陸町  
復興第36号

# 南三陸マイタウン情報

発行所  
千葉総合印刷株式会社  
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84  
TEL(46) 3069 FAX(46)3068  
志津川広報センター  
企画・編集 千葉伸孝

## 志津川地区「輝くみらいづくり部会」参加、検討会傍聴報告⑨

第6回志津川地区「輝くみらいづくり部会」  
3月17日(火) ポータルセンター

### ●協議事項 街並景観について

志津川らしさをつくり出している(つくり出してきた)、景観(風景や街並み、歴史、自然など)とはどのようなものか。良かったもの・悪かったものなど、意見を出し協議した。

今後志津川に取り入れていくと良いと考える。風景を形成する要素はどのようなものがあるか話し合った。

資料の「南三陸の風景」には、被災前のなつかしい志津川の写真があった。海ではサンオーレ袖浜海水浴場や志津川魚市場、一面に広がる海産物があった。山では東山の桜満開の姿が、街並みでは旧庁舎から城場の雪景色があった。おさかな街通り、川沿いの石垣の上に建つ家々・五日町の白壁の蔵が当時を思い出す。生活では八幡川の潮干狩り、行事では消防出初式のはしご乗り・流燈会・トコヤッサイ・稚児行列など、またこんな風景がある新しい町になればいいなと思った。

協議に入り、会員思い思いの良き志津川の場所を語り合った。映画館もあったし、一休さんなど気軽にお酒を飲める所がいっぱいあった。松原公園のSLなどの遊び場、野球場・陸上競技場・ゲートボール場などが町民のいこいの場としてあった。新しいものでは、フィッシングパークや夕風カフェ、スペースには手作りの自作の品々の販売があり、町民の集まる場所となっていた。震災後に移住してきた方は、「やっぱり海がいい」と話す。

現在の話しも出た。子ども達がほとんど歩かなく、生活はスクールバスで、放課後はグラウンドで遊べないなど、現実にもどる場面もあった。

海があって山があって、そこを人が廻れる町が理想的な街と私は思った。

第8回東団地まちづくり検討会  
3月24日 ポータルセンター

第7回の意見に対し見学会を4月中頃に行う。27年6月に東工区、10月に西工区南側と、28年5月北工区・11月に西工区北側の宅地引き渡しスケジュール予定が報告された。

今回の議論に入り、3月23日現在の申し込み状況は、Aブロックは55宅地に対して66の希望があり、Bブロックは99宅地に対し63の希望結果となった。Aブロック抽選会を4月11日(土)に開催する。対象者に案内文を発送し、抽選をする。抽選会に欠席の場合は町が代行して抽選する。

4月15日(水)～27日(月)まで、一次宅地申込み期間となり、現地見学会は4月19日を予定している。宅地決定個別相談会も計画中で、5月下旬から2次宅地申込み手続きへと予定し、時期については今後変更する可能性がある。

現時点での東団地の建築条件は、都市計画により10mの高さ規制(災害公営は20m)、店舗面積は延べ床面積の2分の1未満。今後は高台団地では用途地域規制が設定され、将来の街並み形成に建築条件(ルール)を定めます。

志津川東団地の建築条件(ルール)は、  
●必ず守ってもらうもの。建物の高さの最高限度10m以下、店舗面積は延べ床面積の2分の1未満。

●守っていただきたいもの。建ぺい率60%、容積率200%まで、建物は隣地・道路境界から1m以上離しましょう。店舗面積は50㎡以下(店舗優先エリアを除く)

●配慮していただくこと。できるだけ垣柵を使

い緑を多く、建物は景観に配慮した色をこころがける。

会場には委員・傍聴者15名が参加し、多くの質問と提案が出された。「希望しない小さな土地が当たったら返してもいいの」「土地の希望をとっているのに、希望に応じた土地を確保しなかったのか」「質問に対する答えがあいまいで町民は納得できない」など、白熱した議論がかわされた。

東地区独特の「店舗併用宅地」の大きめの土地が6区画あり、現在8名の方の希望がでてい

第8回西団地まちづくり検討会  
3月25日 ポータルセンター(参加者16名)

宅地決定スケジュールでは、4月まで工区申込み、開示・調整期間とし、現在受け付けている。27年11月に東工区東側、西工区、28年12月の東工区西側の宅地引き渡しを予定している。3月25日現在、東工区48区画に対し48の希望があり、西工区は22区画に対し15となっている。

申込み数が工区定員を越えた場合は話し合いとなるが、決まらない時は抽選会を実施する。店舗などの単独建設はできないが、住宅と店舗の併用建築物は可能。建物は将来定める用途地域の制限に準拠する。西団地は第一種低層住宅専用地域(旭ヶ丘と同様)。建築ルールは東工区と同様ながら、業種や原動機の用途規制(一低専)に準拠しなければならない。

議論では「一低専の規制では、店舗併用は厳しい」「旭ヶ丘団地には店がないので店があつてほしい」等があった。現在申請のある業種は、喫茶店・日用品販売店などがある。

(うら面へつづく)

前号よりのつづき

### 支援の輪の交流継続!

小林観光課長さんは、体育館で共に生活させてもらい、避難所自治会役員だった高橋源一さんの「一緒に食べましょう」との大変な中での気遣いに、心打



当時避難場所となった旧荒小体育館

れたと話す。また、物資の配布があり、おばあさんがペットボトル4本を持って帰るのは大変と、自宅まで届ける途中で「ここが役場の未希さんの家です。」と教えてもらい、訪ねて行くとお父さんが心よく応えていただき、ご焼香もさせていただいた。多くの町民皆様が家をなくし、家族の不幸があっても支援に来られた方々への心温かい対応に頭が下がったと話す。

長野県原村からは2人の自治体派遣があり、1人の方は遺跡の発掘支援に参加された。原村の清水村長さんは、「何もできませんけれども」と話し、南三陸町の袖浜の民宿のごちそうを「美味しいものがたくさんありますね」と町の旬の味を喜んでた。

震災の23年に8回、以降毎年2回で計14回長野県原村に被災された地域民の心を癒しにと、南三陸町民を招待した。村でマイクロバスをチャーターし、宿泊をしてもらい体を休めてもら



った。その数は延べ200名を超えた。荒砥地区から袖浜地区そして歌津へと範囲を広げ、被災地「南三陸町」の住民支援

を続け、今後も南三陸町民皆様と支援交流をしていくと話す。

袖浜地区の原村でお世話になった方や、荒砥地区の方々も加わり、当時の大混乱での原村の活動への感謝の言葉が、来町された清水村長さん、

## — 防災対策庁舎の動き(12月)そして現在② —

町長は「解体方針に変わりはない」と語った(12日)

12月定例会で県との災害廃棄物処理事務委託を年度内に廃止するための関連議案の中で議員の質問に答えた。議場には10名の職員遺族が傍聴に訪れた。遺族は「有識者会議に関係なく庁舎は壊す」と言ってほしかつたと話す。有識者会議は12月18日にも開催され来年1月には結論が出される。

有識者会議が知事に「保存すべき価値がある」と報告した(18日)

9人の有識者会議の委員が全員「保存」と評価した。「他と比較して特段に価値が高く、突出した遺構」「世界に誇れる貴重な財産」「県など第三者が積極的に関与すべき」と意見を述べた。解体を希望する遺族や町民に配慮し「目に触れないような工夫が必要」との意見もあった。佐藤町長は会議を聞いていないとコメントはしなかった。村井知事は来年1月中旬に町側と協議していく考えを示している。

有識者会議に「住民不在の結論」に反発の声(20日)

今月3日、県に解体を求める声明文を出した阿部さんは、「有識者会議は遺族の意見を一度も聞いていないまま保存を判断した。遺族の気持ちを判っていない」と話す。保存を求める町民は

小林課長さんへ向けられ、会場となった民宿で時間のゆるす限り共に語りあった。

(原村は長野県の中央に位置し、43.1km<sup>2</sup>の面積で人口は約7600名、世帯数は2600余りの街です)

「町民が不在のままで議論が進められている事に違和感を覚える」と語っている。

有識者の平川新座長は「住民の不満の声は承知している。有識者会議はあくまで学術的に評価するもの。そのような成り行きになったことはやむを得ないと考えている」と話した。

村井知事との協議を佐藤町長受け入れ(22日)

町長は県との協議に対して「拒否するものでもない」と話す。村井知事は有識者会議の決定を受け、来月中にも保存に向けた県の考えをまとめ、町側と協議し方針を示す。

八幡川右岸にある「防災庁舎」は、「復興祈念公園」として生まれ変わる。

3月中旬の防災対策庁舎周辺の光景です。防災庁舎は高台からの残土が積み、かくれるばかりの状況です。公園やメモリアルゾーンとして、26・27年で6800万円が交付されている。



# 未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成26年(2014年) **12月の出来事**  
～地元報道より～

◇歌津柁沢地区の災害公営住宅が、1ヵ月前倒しの完成となる見通しとなる。国道沿いで3階建、2DK13戸・3DKが7戸で総計20戸。

◇志津川地区の月末開催の「福興市」に志津川中生248人と教職員が参加した。生徒は生の販売や接客を学び、福興市運営の手伝いをした。

◆気仙沼市大川のサケ漁が前年比3割増しとなり、採卵数も被災前と同じに回復した。

◇志津川中学校バレー部が県新人大会において、準優勝に輝いた。決勝戦は仙台第1代表の高砂中に敗れた。

◇南三陸病院の建設に、気仙沼・本吉地区で初めて免震装置が導入された。今後の地震発生が予想され、医療拠点の安定性が確保され建設工事が進んでいる。

◇女川原発30k圏内に位置する南三陸町は、県のガイドラインで登米市への避難と、事故を想定し年度内に計画を立てる。

◆県漁協気仙沼支所の10月～11月のカキ生産は、階上・歌津の処理場が復旧したことで、前年同月に比べ数量2.8倍の87トンで、金額は3.4倍の1億4580万円となった。

◇志津川八幡川でのサケのやな場の捕獲数は終盤を迎え、前年比の3割で被災前の2割にとどまっている。網揚げ中止に疑問の声もあり、「資源管理型漁業」の在り方への方向性に、被災した河川の改修や河川堤防の建設もあるなど、多くの問題がある。

◇南三陸町の本庁舎・歌津支所の建設にあたり、公募での「プロポーザル型」で民間のアイデアを取り入れる。

◇入谷災害公営住宅の住民が、周辺の商店や公共施設を把握するためにマップ作りをはじめた。地図や観光情報も盛り込んでの製作活動をしている。

◇南三陸町の「介護初任者研修(訪問介護職員2級課程)」が修了し、昨年より7人多い18人が資格を取得した。その内3割が高校生で「復興の力になりたい」と、介護福祉職員の不足に対する一助となりそうだ。

◇町は可燃ゴミの最終処分場の建設を検討している方針を示した。

◇南三陸町でボーナス支給(1.55ヵ月)、町長は約140万円、副町長は約107万円だった。平均支給額は年齢平均44.5才で64万円となった。一般職222人に対し総額1億4318万円だった。気仙沼市市長は25%の給料カットが反映され136万円だった。

◇町では人口減少対策に対して地方版総合戦略を策定し、対策に本腰を入れる。

◆気仙沼市の復興事業の進捗状況の5割が計画どおりで、問題ありは1%で「問題はあるが前進」は40%と報告した。

◆「けせんぬまーけっと」として、ヤフーと共同ショップ開店。ネット上に商品をアップして、販路の拡大を図る。

◇JA南三陸は本店と志津川支店の起工式を11日に行った。場所は南三陸町志津川廻館地内(旧志津川社協跡地)

◇歌津港地区に、コミュニティーの再構築の場として、歌津中野の集会所「港親議会館」が11日に完成した。建設には全国からの寄付が充てられた。

## おかげ様で移転一周年

商工団地エムズローソン下の通り中央

**千葉総合印刷株式会社**

南三陸マイタウン誌発行元 志津川広報センター

◇12月定例議会は、129億余りを追加補正し一般会計総額約603億円となった。震災復興祈念公園の設計委託料に2900万円を予算措置した。

◇「ローランド・ピアノ・ミュージックフェスティバル」東北大会で、志津川高校の近藤さんが最優秀賞に選ばれ、全国大会への出場を得た。志津川町内にあった「なかよしピアノ教室」も震災で流出し、登米市での再建をはたし、片道50分の時間をかけ、練習してきた成果が実をむすんだ。

◆衆議院議員宮城6区小野寺五典氏(56)が10万票余りを取り、次点の鎌田氏に7万票余りの差を付け6度目の当選を果たした。復興への決意を述べた。

◇南三陸診療所での今年5月から始まった「妊婦診察」が町民から好評を得ている。町内では15年ぶりの再開で、石巻日赤と連携し健診を行っている。妊婦にとっては安心感へとつながり、気仙沼市や石巻へ通院負担の軽減となっている。

### ココミ情報

## なっちゃん焼鳥おいしい!

昨年、旧クボホームからコメリのとなりに移転した「大島青果」さん。その脇の小さな焼鳥屋さんが「なっちゃん」の店です。

『たれ』が自慢で電話予約すると、すぐに持ち帰り出来るとのこと。

◇「南三陸町の安全・安心な町づくり推進会議」の初会合がもたれ、毎月11日を「安全・安心の日」と定め、初会長は南三陸安全協会長の菅原塚夫氏を選任した。

◇三陸道の小森の志津川ICから南三陸海岸ICまでの区間の、「新井田川橋」の連結式が14日おこなわれた。磯の沢に架かる高さ35m長さ163mの高架橋は、町内の名所となっている。志津川ICから南三陸海岸ICの供用は28年度を予定している。

◇観光特区に南三陸町が国から認定された。観光関連の集積を促すために、税制上の特例措置がとられるなど、産業再生などを後押しとして、復興の新しい町づくりの追い風となりそうだ。

◆気仙沼市立本吉病院は25年度の実績報告の中で、外来は1.5倍と目標達成したものの、入院患者は3割にとどまり、全体の評価では総体的に「未達成」となった。今後も経営健全化への課題解決に取り組む。

◇南三陸町では震災の中小企業の復興を後押しするため「振興基本条例の制定」を図り、官民一体で中小企業を支援していく。

◇22日復興特区認定書が交付され、交流人口の増加を目指す。



## 明神崎荘オープン

週末(金・土・日)の宿泊予約はお早めに!  
(8室の限られた部屋です)

◇29日「おすばでまつり」開催。タコなど浜産で販売する。

◆フィッシング全国日本選手権で、気仙沼出身の千田健太選手(気高・中央大)が、男子フルレ個人で2連覇を果たした。リオ五輪を目指しガンバル姿に被災地では元気をもらっている。

◆本吉小泉川のサケの採卵数が過去最高の1800万粒となった。震災の年の4年目のサケの減少を予想するも、結果に組合員はホッとしている。

◇志津川「中橋」のランドデザインが隈研吾氏により示された。長さ74mで約6mの幅員を計画し、人道橋とした。市街地は「回遊性と親水性のある街並み」がテーマで、町民と観光客の交流を促進し、町の復興へのシンボルとして年度内に着工を予定している。

◆気仙沼市では11月までに、78校4189人の学校生徒が訪れている。教育旅行体験学習の増加が今後も見込まれ、「宿泊型」が課題となって

## 南三陸町から登米市に移転した方々の地域交流活動



## 李政美コンサート

日時…6月27日(土)  
場所…宝江ふれあいセンター  
入場料…2500円  
主催…李政美コンサート実行委員会  
(問い合わせ先 080-5220-9402 佐々木まで)

いる。今後3月末までに300人以上の予約もあり、観光復興への環境整備が求められている。

◆気仙沼市本吉馬籠地内で、乗用車とトラックが衝突し、同乗の女性が死亡した。

◇南三陸サケ漁は沿岸・河川とも前年比の8割にとどまり、採卵不足は北上川から購入を予定している。

◆気仙沼市内ではいまだに8千人が仮設住まいで、3回目の年越しをする。

◇伊里前地区のかさ上げと事業手法にめどが立った。市街地は都市計画区域外で、国の復興交付金の事業メニューにもなく、整備が進まなかった。取り組む事業手法として、三陸道の残土エリアを半分にし、整備費に市街地復興効果促進事業の復興交付金を活用する。商店再建は店主が出資し「まちづくり会社」を設立し、町有地(1.2ha)に20店舗の入居を見込む。三陸道の残土のかさ上げも進み、更なる事業加速を地区民は願っている。

◇南三陸町では29日に恒例の「おすばで祭り」が開催され、3年目の年を元気ある来客と売り手の声で締めくくった。

◆気仙沼市魚市場の水揚げが3年連続県内1位となった。水揚げ高は170億円にもなる。

## 志津川剣道スポ少4月3日スタート

## 団員募集中

場所: 志津川中学校武道館  
時間: 金曜日・PM6:30～8:30まで  
(詳細・連絡先 080-1801-6399 千葉まで)

おもて面からのつづき

## 検討会傍聴報告⑨

## 第8回中央団地まちづくり検討会 3月27日 ポータルセンター(参加者17名)

今後の宅地決定スケジュールは、27年度4～6月見学会、6～9月ブロック決定、28年3月西側・12月東側宅地引き渡し。基本的には東・西工区に準拠する建築規制(ルール)となっている。土地利用計画案は計135宅地。

中央区の店舗優先エリアについては、中央区の中央に8.5mの道路を整備し、店舗併用宅地を道路沿いに帯状に配置するか、スポットとして配置するか議論した。

併用住宅は、日用品店・理容店・洋服店・パン屋など約27あり、事務所もその中に入る。あくまでも住宅地なので営業時間や匂い、騒音などの問題もある。また、意見として「店の経営に一般住宅の電圧では店舗としては厳しい。」その他「ひな段であるため中央道の勾配も3～5%では車の出入りが危険ではないか」等があった。現在迄の完成イメージ図(検討会資料)

